

## 獨逸ニ於ケル結核防滅策

(第 11 回近畿結核集談會講演要旨)

日獨交換學生 ドクトル エ、クレムト

獨逸國情ノ大變改ハ國民生活ノ全面ニ異常ノ活氣ヲ喚發シタノデアアルガ、コノ革新機運ノ下ニ結核防滅ナル喫緊ノ問題ガ等閑視セラルベキ筈ハ素ヨリ無イ。從來、結核撲滅ノ計劃ハアルニハアツタガ、而モ尙ホ常ニ約 30 萬ノ開放性結核病者ガ在ツテ、此者ハ約 100 萬ノ同胞ヲ新感染ノ危險ニ導クモノト目セラレルノデアツタ。此數字ハ前政治機構ノ末路頃ノ見當デハ最早減少スベシトハ見エナカツタ。當時結核防滅ニ當ツタノハ無數ノ個々獨立シタル機關ト團體トデアツタガ、當局萬全ノ支援ガ無イ爲メニ屢々困難ヲ嘗メツ、モ如何ニモシテ效果ヲ擧ゲンモノト腐心經營シテ來タノデアツタ。

今日デハ事情ハ全然相違シテ居ル。結核豫防ナルモノハ、第一ニ單位的ニ組織化、統制セラレ、第二ニハ疾病經過ノ可及的短縮ヲ計ル目的ヲ以テ早期診斷——尤モ單ニ此際病臟器ノ診斷ニ止マルハ不可デ、結核病者ヲ「肺臟ニ脚ノ生エタオ化ケ」ト心得テハナラヌ、宜シク全身ヲ目標トスル他ニ病人ノ全家族ノ衛生状態ニモ注意シ、尙ホ其周圍ノ檢診ニ及ブ——ニ非ザレバ效果望ミ難シトノ見解カラシテ、當面重要ノ結核豫防機關、保健關係ノ國營諸機關、自治團健康相談所竝ニ社會保險局ガ 1934 年ニハ法令ニヨツテ合理的ニ統轄セラレルニ至ツタ。尤モ此間、裁斷權ト其責任ハ醫業ニ委ネラレルモノデアリ、醫業ハ嚴然確固タル存在デアル。斯クテ結核防滅戰線ハ廣汎ノ布陣ヲ形成シテ居ル譯デアル。

凡ソ醫事關係ノ指導精神、即チ國家團體ノ要求スル處ノモノハ、今日デハ健康者保護即チ國民全體ノ防護ト云フニ在ルノデアル。其故、醫師タル者ハ病者ノ治療ニ最善ノ力ヲ致スベキハ素

ヨリ、疾病防遏テフ更ニ遠大ナル職責ヲ自覺スベキデアル。

住民ニ「レントゲン」檢診ヲ施ス中、毎常少數ノ病者自身心付カザル開放性結核例ノ有ルコトハ周知デアリ、而モ此等ハ病氣ヲ自覺セヌ丈ケー周圍ニ對シテ一層危險デアル事、竝ニ病人ハ兎角手オクレシテ醫師ニ赴クモノデアアルガ故ニ寧ロ醫師ガ進シテ之ヲ訪問診察スベキデアルト云フ二ツノ事實カラシテ、現今獨逸デハ大規模ニ「レントゲン」檢診ヲ實行シテ居ル。

學生、生徒、勞働奉仕者、工場團員、「ナチス」突撃隊竝ニ親衛隊ノ如キハ——時ニ醫師側カラノ要請モアツテ——徹底的檢査ヲ受ケテ、其所見ハ新設ノ保健局員ニヨツテ記録セラレルノデアアル。私ノ教ハツタ範圍デハ、此ノ保健局ノ仕事ハ國民全般ノ健康保持ヲ目標トスルモノデアツテ、健康相談所デ「レントゲン」裝置ヲ有タヌモノニ對シテハ約 1 萬臺ノ該裝置 (其一部ハ携帶用)ヲ周旋シ、多數ノ醫師ニ省令任官ヲ命ズル等、政府ガ如何ニ眞面目ニ國民健存ノ重要問題ニ當ツテ居ルカノ證據デアル。醫師ガ喀菌者ヲ發見シタル時、或ハ開放性結核ノ疑有リト診タル場合ニサエモ醫務官廳ニ届出ヲ要スルコト等ハ既ニ御承知ト思フ。

結核乃至結核感染危險ト診タル上ハ、本人ノミナラス其全家族ニ對シテ醫療、住居、經濟等ノ觀點カラ臨機應變、適宜ニ之ガ救援ニ努メルコトナツテ居ル。何トナレバ、初メニ充分ノ費用ヲカケテ一舉ニ效果ヲ收メル方ガ不徹底ナ方法デ長時日アレコレト迷フヨリハ優レテ且ツ安上リデアル事ヲ確認シテ居ルカラデアル。其故、病人ニハ社會衛生局カラ充分ノ醫療ヲ施スノデ

アルガ、國家社會政策ニ基ク處ノ健康相談所ハ家族ヲ引受ケテ適當ノ住宅ヤ榮養生ノ世話ヲナシ、若シ專用ノ寢室ヲ有タヌ兒童ガアラバ何ハ扱テ置キ寢臺ヲアテガツテヤルノデアアル。又感染危險ノ子供ハ長期間轉地サセルコトサエアル。治療ソノモノハ大體特定ノ結核病院ト療養所デ行ハレテ、此處デハ必要ナル外科的及ビ「レントゲン」的研究モ出來ルガ、何ヨリ大切ナノハ有カナ専門家が指導ニ當ツテ、相成ル可クハ病者ヲ元々通り完全無缺勞働可能トナスコト、少クモ開放性結核ヲ閉鎖型トシテ周圍ニ無危險ノ程度ニ至ラシメルコトヲ目標トシテ居ル事デアアル。治療デハ一般療法ガ主デアリ、傍ラ外科的處置モ採用セラレルガ、化學療法ハ現今尙ホ随分ト異論ガアル。

無理解ナ或ハ非社會性ノ開放性結核病者ヲバ有無ヲ言ハセズ治療ニ廻ハスコトハ從來不可能デアツタガ、今日ノ情勢デハ試驗的ニ先ヅチューーリングンデ實施シテアル方法ハ開放結核患者ヲバ病毒撒布ノ危險消滅ニ至ルマデ強制隔離治療ヲ施スノデアアルガ、實行可能ノ様デアアル、ソシテコノ方法ヲ全ドイツ國ニ適用スルコトハ、最早時ノ問題デアアル。斯クテ、獨逸國民ハ國家モ社會モ全能力ヲ擧ゲテ、結核ト鬭爭シテ居ルノデアアルガ、コノ戰ハ日本ニ於テモ同様、民族行政上極メテ重要ノ課業ニ相違無イ。獨逸ニ於ケル以上ノ如キ行キ方ハ恐ラク安値デ無イノミカ尙ホ當分大ニ費用ノ掛ルコトデアラウ。然シ、コレデモ結構引合フ譯デ、假ニ 50 萬ノ勞働可能ノ人達ヲ重症結核カラ保護シ得ルナラバ、國民收益ガ年額 7500 萬「マルク」増加シタト見テ差支無イ。若シ此丈ケノ勞働作能ヲ無キモノト考ヘルナラバ、吾人ハ遠カラズ勞働者缺乏ノ憂キ目ニ直面スルコト請合デアアル。

有效ナル結核對策ニ因ル壯丁合格率竝ニ出産率ノ増加ハ確實デアリ、傍ラ國民ニハ明朗ノ精神的好影響ガ有ルト云フ譯ニモナル。

我が獨逸ノ對策ハ效果的ノモノデアアル。既存ノ開放性結核病者ノ生存日數ハ著シク延長セラ

レ、完全復職ノ率ガ從前ヨリ良クナツタ事ハ最近カイザーペーターゼン及ビレーダー氏等ノ擧ゲタ數字デ實ニ明瞭デアアル。

學童ノ結核感染率ハ更ニ著明ニ減少シテ、卒業期デ平均 50%、大學新入生デ 70%デアアル。結核家庭ニ産マレテ充分ノ衛生的保護ヲ受ケテ居ル子供デハ此節デハ保護ヲ受ケザル同様ノ兒童ニ比ベテ死亡率ガ僅カニ 3 分ノ 1 デアル。保護ヲ受ケテ居ル乳兒(保護トハ專用ノ寢臺、充分ノ榮養、規則的ノ醫師ノ監視、治療等デ就中、綿密ナル小兒衛生ノ施設嚴守ヲ意味スル)ノ死亡率ハ近年デハ 6.3%デ全國平均死亡率ノ 10.7%ヨリハ甚ダシキ低位ニ在ル。處デ、コノ死亡率ヲ更ニ減少セシメルコトハ今ノ向キデハ出來ソウニ無イ。私ガ AO 豫防接種ニ興味ヲ覺エタ所以ハ實ニ茲ニ在ルノデ、尊敬スル有馬先生カラ修得シテ之ヲ獨逸ニ及ボサンコトヲ希フ次第デアアル。

現在ノ處、獨逸ハ從來ノ統計ニ基イテ豫防注射ハ在來ノ對策以上ノ效果ヲ現ハスモノデナイトノ立場ニ在ルノデアアルガ、私ハ雙方併用ニヨツテコソ最良ノ結果ニ達ス可キモノト思惟スル者デアアル。獨逸ノ一般ガ結核豫防接種ヲ一向ニ信頼セヌノハ今一ツ別ノ理由ガ有ルカラデ、ソレハ例ノリュベック事件ノ恐怖ニ由來シテ居ルノデアアル。

以上述ベタ如キ實行方法ノ他ニ、無論、結核知識普及ノ宣傳モ行ハレルガ、コレモ結核防遏從ツテ死亡率低下ニ一役勤メルモノデアアル。ト云フノハ、凡ソ自己ノ疾病ノ危險性ヲ知レバ愛兒ニハ傳染サセマイトスルノハ人情デアラウ。家庭醫ト云フノハ常ニ全家族ニ親シムモノデアツテ、結核防滅上決シテ馬鹿ニナラヌ役割ヲ有ツモノデアアルカラ、此點デ現今大ニ注目セラレル様ニナツテ來タ。若シ、當局不斷ノ努力ガ報イラレテコノ家庭醫制度ノ理想ガ實行ニ移サレルトスルナラバ、結核防滅上實ニ結構ナ話デ、ソニ曉ニハ、開放性結核患者ヲ治療スル醫者ガ病人ノ家族ノ事ハ敢エテ關知シナイトカ或ハ現ニ

診療中ノ患者ノ配偶ガ開放性結核デアアルノモ御存知無イナド云フ如キ不都合ナ事態ハ起ラヌデアラウ。更ニ、家庭醫ハ深刻ニ遺傳問題ニ逢着スルニ相違無イ。尤モ本問題ノ研究ハ遅々トシテ進マヌ觀ハアルガ、而モ多少ノ進歩ハアル譯ダ。結核自體ガ遺傳セヌ事ハ確實トシテ素因賦與ハ可能デアルト知レテ居リ、其爲メ、結婚相談ガアルトシテ、雙方ノ何レカガ甚ダシイ結核ノ家筋デアル場合ニハ、結婚禁止トマデハ行カヌガ、破談ヲ推奨スルコトニナツテ居ル。最近ノ結婚法デハ、結婚前ニ雙方共子孫ニ危険ヲ及ボス傳染性疾患有無ノ診斷ヲ要スルコト、ナリ、感染可能ノ結核ハ凡テ一律ニ結婚嚴禁ト決マツタ。此場合、感染危険ト云フハ必ズシモ菌撒布ヲ證明セズトモ、臨牀上竝ニ「レントゲン」検査ノ所見ニヨツテ撒菌ノ危懼有ルベシト思惟セラレル者ヲ凡テ指スノデアアル。一言ニシテ盡セバ、此ノ國民病撲滅ニハ獨逸式ノ徹底主義ヲ持シテ有ユル 部面ニ奮戦シツ、アル次第デアアル。

扱テ、將來醫學ノ教育方針ヲ如何ニ樹立スベキカトノ問題トナレバ、先ヅ結核ニ關スル徹底的教育ノ必要ヲ痛感セヌ譯ニ行カヌ。而シテ、各専門分科ガ從來ヨリハ一層深刻ニ結核ニ關心ヲ有ツ事ト、更ニ國民衛生ノ諸懸案ヲ綜合討究スル方策トガ右ノ醫育ノ基調ヲ成ス可キデアラウ。専門學校教育デハ診療ニ關スル基礎知識ニ出發シテ遂ニハ豫防問題ニ進ムベキモノデアアルガ、更ニ之ヲ實地ト各自ノ研究トニ緊密關聯セシメルナラバ、以テ實生活ニ即シタルモノトナシ得ベキ事ハ吾等ハ既ニ體驗ニヨツテ實證濟ミト信ジテ居ル。若シ吾人ガ、以ツテ誇リトスル處ノ眞ノ國手タランコトヲ希フナラバ、結核防

滅戰ニ於テ單ニ各個ノ病人トソノ家族竝ニ周圍ニ對シテ治療ヲ施ス他ニ尙ホ宜シク綜合的對策ノ效否ガ懸ツテ疾病處理ノ機宜ヲ得ルト否トニ依ツテ岐レルコトヲ常ニ念頭ニ持シテ、總國民ノ結核蔓延狀況ヲ不斷ニ觀察究知スベキデアアル。

終リニ臨ンデ數言ヲ許サレ度シ。私ガ外國デー再ナラズ耳ニシタノハ、獨逸ノ政變デ各方面ニ國民生活ノ大變動ヲ來タシ、學問ノ意義ト言フガ如キ根本問題サエモ卷キ添エテ喰ツテ流石ノ醫學モ停頓衰微シタトカ、又ハ學界發表ノ數ガ減少シタノミカ其價値マデモ低落シタトカ或ハ獨逸醫學生ノ程度ガ下落シタナドト言フノデアアル。——何レモ當ツテ居ラヌ——私ハ本講演ヲ通ジテ次ノ事ヲ示シ得タト信ズル、ソレハ、ナルホド、獨逸ノ學問ノ考ヘガト行リ方ニ一ト大轉換ガ起ツタ、而モソレハ有利ナ轉換デアツタト云フ事デアアル。吾等ハ最早學理ノミヲ指シテ學問ノ意義ト爲スガ如キコトヲ廢メテ、利用厚生ニ主眼ヲ置クノデアアル。前ニモ述ベタ如ク、獨逸ハ、他ノ諸國モ同様、或ハ國ニヨツテハ數年來知悉シナガラ猶且ツ舊弊家ノ優柔不斷ニ禍セラレテ實行ニ移シ得ナカツタ處ノモノヲ、今日デハ採擇シテ以ツテ行動ノ準繩トモナサンズ勢デアアル點等ヲ重視願ヒ度イモノデアアル。吾等ハ今ヤ昔日ノ桎梏カラ釋放セラレテ、以前ニモ優シテ努力精勵シテ居リ、新興獨逸デハ學問ハ國家ノ保護ノ下ニ發育シ、且ツ傳統ニフサワシク彌榮エ行クコトヲ請合ツテモ良イ。専門教育即チ後繼學生ノ教養ハ平和ニ且ツ細心ニ行ハレテ居リ、臆テハ獨逸一國ノ爲メノミナラズ學問全體ニ寄與スル處アル可キヲ信ゼラレン事ヲ希フ次第デアアル。(以上) (青山譯)